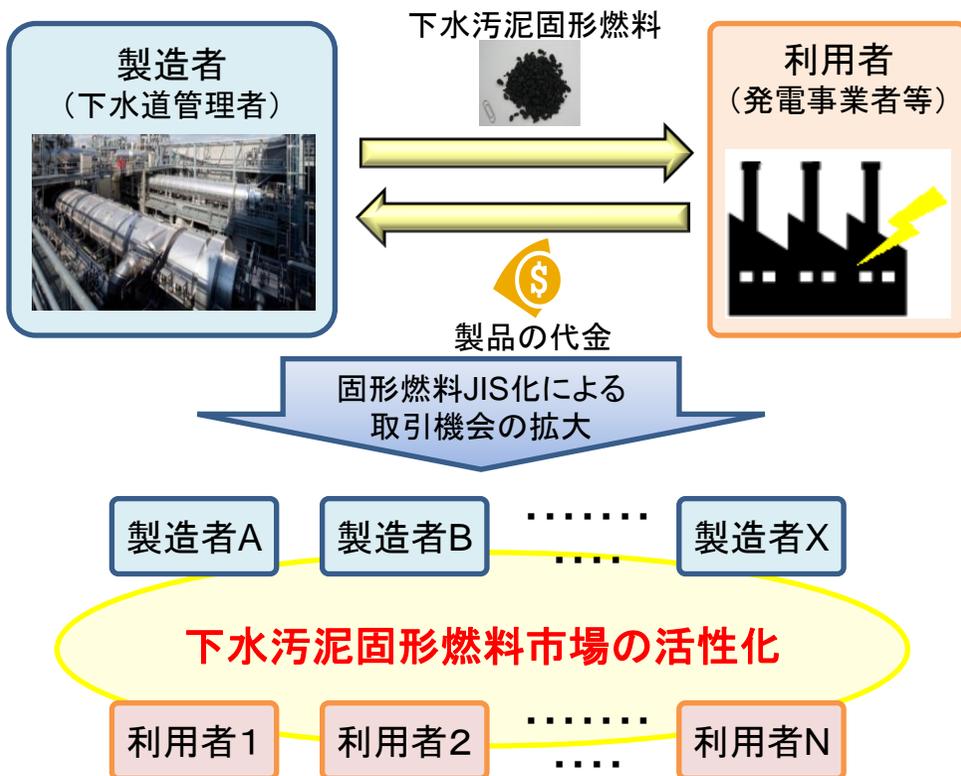


下水汚泥固形燃料のJIS化

- 下水汚泥の固形燃料は、石炭の6～7割の発熱量を有し、燃料としての価値が存在。
- 下水道協会が事務局となり、「下水汚泥固形燃料JIS原案作成委員会」(委員長:津野洋大阪産業大学教授)を設置し、平成26年3月にJIS原案を作成。
- 日本工業標準調査会の審議を経て、平成26年9月に制定。
- 下水汚泥固形燃料のJIS化により、下水汚泥固形燃料の品質の安定化及び信頼性の確立を図り、市場の活性化を促進。

下水汚泥固形燃料のJIS化



《下水汚泥固形燃料JIS規格(JIS Z7312)の概要》

種類	総発熱量 ^{a)} MJ/kg	全水分 ^{a)} の 質量分率(%)	灰分・全硫黄 ・窒素の 質量分率(%)
BSF-15	15以上	20以下	— ^{b)}
BSF	8以上		

- 注 ^{a)}到着ベース、すなわちロットの受渡しの状態(すなわち、全水分含有の状態)における分析値のベースとする。
- ^{b)}規定値は定めないが、試験した到着ベースによる値を報告する。その他の項目は、受渡当事者間の協定による。